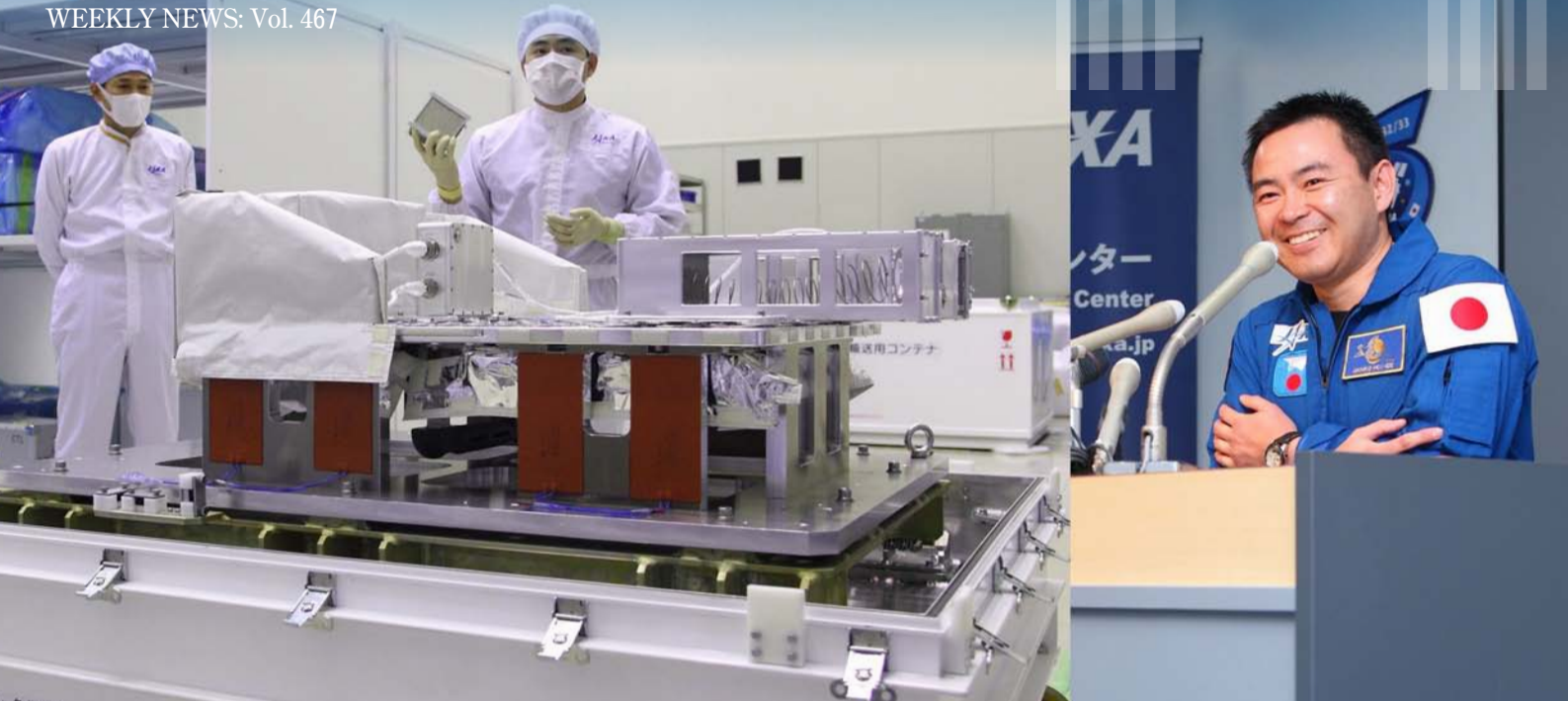


ISS・きぼうウィークリーニュース

International Space Station (ISS) / Japanese Experiment Module "Kibo"

WEEKLY NEWS: Vol. 467



(左) プレス公開された小型衛星放出機構と星出宇宙飛行士(右)、JAXA 有人宇宙環境利用ミッション本部 JEM 運用技術センターの土井忍主任開発員(左)
(右) 記者会見で報道関係者からの質問に答える星出宇宙飛行士(すべて出典: JAXA)

トピックス

星出宇宙飛行士による小型衛星放出機構プレス公開と記者会見を開催

1月25日、筑波宇宙センター(TKSC)で日本に帰国中の星出宇宙飛行士による「きぼう」日本実験棟の小型衛星放出機構のプレス公開と記者会見が行われ、多くの報道関係者が集まりました。

記者会見に先立ち、TKSCの衛星試験棟クリーンルームにて、打上げに向けた準備が進められている小型衛星放出機構のプレス公開が行われました。公開では、土井忍主任開発員が機構の解説を行い、星出宇宙飛行士が、自身が軌道上で行う作業について説明しました。

小型衛星放出機構のプレス公開終了後、記者会見室で会見が行われました。星出宇宙飛行士は冒頭の挨拶で ISS 長期滞在に向けた抱負を述べるとともに、自身の初飛行であり「きぼう」船内実験室を取り付けた STS-124 ミッション(2008 年)に触れ、「その時にはまだ使われていなかった『きぼう』を、今度は研究者や運用管制チームなどの仲間と一緒に使うことにワクワクしています」と語りました。

挨拶の後、質疑応答が行われました。星出宇宙飛行士自身に関することや今後

の日本の有人宇宙開発についてなど、報道関係者からの多岐にわたる質問に、星出宇宙飛行士は時に笑顔で、時に真剣な表情を浮かべながら丁寧に答えました。

星出宇宙飛行士は2月上旬頃まで日本に滞在し、ISS 長期滞在に向けた訓練や広報活動などを行います。

Website info

星出宇宙飛行士による小型衛星放出機構プレス公開と記者会見を開催

http://iss.jaxa.jp/iss/jaxa_exp/news/120125_hoshide_press.html

星出宇宙飛行士 Twitter で最新情報をチェック!
http://twitter.com/Aki_Hoshide

古川宇宙飛行士は東北各地で子供たちとの交流会やミッション報告会に参加

日本に帰国中の古川宇宙飛行士は、1月26日から27日にかけて、福島県福島市や宮城県石巻市、名取市、仙台市など東日本大震災で被災した東北各地を訪れ、子供たちとの交流会やミッション報告会に参加しました。

1月26日、古川宇宙飛行士は福島市立岳陽中学校を訪れ、国際宇宙ステーショ

ン(ISS) 長期滞在中の活動や生活について講演しました。古川宇宙飛行士は講演の中で、「1日1日自分にできることをしっかり積み重ねていけば、きっと自分の求めている目標に近づいていける」と、被災地の子供たちに励ましのメッセージを伝えました。また、1月27日には、石巻市立開北小学校で開催された児童たちとの

交流会に参加しました。

古川宇宙飛行士の Twitter では、古川宇宙飛行士の活動について随時ツイートしていますので、ぜひご覧ください。皆様のフォローお待ちしております。

Website info

古川宇宙飛行士 Twitter で最新情報をチェック!
http://twitter.com/Astro_Satoshi



タンパク質結晶生成実験開始、MAXI サイエンスニュース 39 号を掲載

「きぼう」日本実験棟船内実験室では、流体実験ラックの蛋白質結晶生成装置 (PCRF) を使用して、1 月 28 日から 5 回目の「高品質タンパク質結晶生成実験」(JAXA PCG) を開始しました。この実験で使用するタンパク質を搭載したセルユニットは、プログレス補給船 (46P) で ISS に運ばれました。

「きぼう」実験プラットフォームでは、宇宙環境計測ミッション装置 (SEDA-AP) と全天 X 線監視装置 (MAXI) の観測運用が続けられています。

ホームページでは、MAXI サイエンスニュースを随時掲載しています。最新号の 39 号では、超新星爆発が予測されるオリオン座のベテルギウスの監視について

お伝えしています。そのほかにも毎号大変興味深い話題を掲載していますので、ぜひご覧ください。

Website info

高品質タンパク質結晶生成実験 (第 5 回) を開始
http://kibo.jaxa.jp/experiment/news/pcg5_start.html
 MAXI サイエンスニュース
<http://kibo.jaxa.jp/experiment/ef/maxi/news.html>
 「きぼう」での実験 (各実験の詳細はこちら)
<http://kibo.jaxa.jp/experiment/>



45P は Chibis-M 放出後に大気圏再突入、46P が ISS へ到着

1 月 24 日に ISS から分離したプログレス補給船 (45P) は、1 月 25 日午前 8 時 18 分に軌道高度約 500km でロシアの小型衛星「Chibis-M」を放出した後、大気圏再突入を行い太平洋上に安全に投棄されました。

プログレス補給船 (46P) は、1 月 26 日午前 8 時 06 分にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、1 月 28 日午前 9 時 09 分に ISS ヘドッ

キングしました。

ISS に宇宙空間に浮遊する人工物体の宇宙ゴミ (スペースデブリ) の接近が予測されたため、1 月 29 日、「ズヴェズダ」(ロシアのサービスモジュール) のエンジンを使用して、地上からのコマンドにより、今後予定されていた ISS のリブースト (軌道上昇) を前倒しした軌道制御が行われました。この軌道制御により、ISS の平均軌道高度は 1.9km 上昇して約 392km と

なりました。

Expedition 30 Crew

ISS 滞在 76 日経過
 ダニエル・バーバンク (コマンダー、NASA)
 アントン・シュカブレロフ (ロシア)
 アナトリー・イヴァニシン (ロシア)
 ISS 滞在 38 日経過
 オレグ・コノネンコ (ロシア)
 アンドレ・カイバース (ESA)
 ドナルド・ペティット (NASA)

Website info

45P ミッションページ
<http://iss.jaxa.jp/iss/supply/45p/>
 46P ミッションページ
<http://iss.jaxa.jp/iss/supply/46p/>

Mini Column 有人宇宙開発の歴史において - NASA DAY of Remembrance (2012/1/26)

米国の有人宇宙開発の歴史における重大事故 3 件が 1 月末前後に集中していることから、NASA は 1 月最後の木曜日を追悼の日とし、事故の記憶を忘れないこと、悲しみを乗り越えて有人宇宙開発を未来へとつなげていくことを誓っています。特に 3 件目のコロンビア号事故により ISS 計画は大きな影響を受けましたが、約 2 年半の歳月を経てスペースシャトルの飛行は再開され、現在の ISS へとつながっています。



左からアポロ 1 号のミッションパッチとクルー (1967/1/27 に火災事故で喪失)、STS-51L ミッション (チャレンジャー号) のミッションパッチとクルー (1986/1/28 に爆発事故で喪失)、STS-107 ミッション (コロンビア号) のミッションパッチとクルー (2003/2/1 に空中分解事故で喪失)、飛行再開ミッションとなった STS-114 ミッション (ディスカバリー号) のミッションパッチと野口宇宙飛行士らクルー (2005/7/26 打上げ、2005/8/9 に地上へ帰還)

more information



▶ 2 月 20 日 (月) 開催 平成 23 年度第 3 回宇宙医学生物学研究ワークショップ「宇宙医学と睡眠・生体リズム」 参加者募集中

http://iss.jaxa.jp/topics/2012/01/igaku_ws_fy23_3.html

本ワークショップでは、ISS でデータ取得が進んでいる宇宙飛行士の心拍の解析から見た生体リズム研究の成果を紹介するとともに、地上と宇宙の研究成果を踏まえた望ましい睡眠・生体リズムのあり方や、そのための工夫の秘訣などについて総合討議します。

一般の方もご聴講頂けます (参加費無料、事前申込み制)。詳細はホームページをご覧ください。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

ISS・きぼうウィークリーニュース 第 467 号

問い合わせ先：宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.jaxa.jp/> E メール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.jaxa.jp/weekly/>

※特に断りのない限り日付は日本時間です。

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。